

**FileMaker Pro 9 以前の
バージョンから
FileMaker Pro 10 に
バージョンアップするときの注意点**

©2010 FileMaker, Inc. All rights reserved. FileMaker、ファイルメーカー及びファイルフォルダロゴは、米国及びその他の国において登録された FileMaker, Inc. の商標です。その他の商標はすべて、それぞれの所有者の財産です。

FileMaker は、個々の独立した提供者により製造されここに紹介される製品の性能や信頼性について、明示的であれ、黙示的であれ、なんらの保証もおこなうものではありません。協定、合意、または保証は、たとえ交わされるとしても、すべて提供者と将来のユーザの間において交わされるものとします。製品の仕様や提供の可能性は、予告なく変更される場合があります。

本書類は、一切の保証なしに“現状のまま”提供されるものであり、FileMaker は、黙示の商品性の保証、特定の目的についての適合性、非侵害の保証を含め、一切の明示あるいは黙示の保証を否認します。FileMaker ならびに FileMaker の供給者は、直接的損害、間接的損害、偶発的損害、結果的損害、営業利益の損失、懲罰的損害、特別損害を含め、このような損害が生じる可能性についてたとえ知らされていたとしても、いかなる損害についても一切の責任を負わないものとします。法域によっては、無保証あるいは責任制限を認めない場合があります。FileMaker は、本書類を予告なくいつでも変更できるものとします。本書類はいずれ時代遅れとなるかもしれませんが、その情報を最新の情報にすることを約束するものではありません。

FileMaker 製品をご使用になっているお客様からさまざまな質問をいただいております。その中でも多いのが、今、ご使用になっているバージョンから最新バージョンにしたときに問題なく継続して使えるだろうか、もし注意すべきところがあればどういった注意点があるのだろうか ... という内容です。これらを、ここにまとめます。みなさまの参考になれば幸いです。

FileMaker Customer Support

目次

目次	3
1. FileMaker Pro 7、8.x、9 の場合	4
2. ファイルメーカー Pro 6 以前の場合	5
2.1 ファイルメーカー Pro 1.0 および 2.1 のデータベースの変換	5
2.2 単純なファイルの変換	5
2.3 複雑なデータベースの変換	6
2.3.1 旧バージョンのファイルを変換して活用する	6
2.3.2 新たに FileMaker Pro 10 でデータベースを作成する	6
2.4 ファイルの変換直後の注意点	7
2.5 変換ログファイル	10

1. FileMaker Pro 7、8.x、9 の場合

FileMaker Pro 7、8.x、9、および FileMaker Pro 10 は同じファイル形式を共有しているため、FileMaker Pro 10 は、FileMaker Pro 7、8.x、9 のファイルを変換せずにそのまま開くことができます。FileMaker Pro 10 のファイルを FileMaker Pro 7、8.x、9 で使用することもできます。ただし、旧バージョンでファイルを開いた場合、新しい機能が適切に動作しない可能性があります。特に次のような点に注意してください。

- スクリプトトリガ（バージョン 10 からの機能）：バージョン 9 以前のバージョンで開いた場合、動作しません。
- 条件付き書式（バージョン 9 からの機能）：バージョン 8.5 以前のバージョンの FileMaker Pro で開いた場合、設定した書式で表示されません。
- 外部データソース（バージョン 9 からの機能）：バージョン 8.5 以前のバージョンの FileMaker Pro で ODBC データソースに接続されたファイルを開く場合、リレーションシップグラフの ODBC テーブルは、<ファイルが見つかりません>というラベルが付けられます。データソース機能では、一部のメニュー項目の表示が異なります。たとえば、カスタムメニュー (FileMaker Pro Advanced のみ) では、メニュー項目の構成や、新しいメニューや変更されたメニューの表示方法が異なります。
- Web ビューア（バージョン 8.5 からの機能）：バージョン 8 以前のバージョンの FileMaker Pro で開いた場合、Web ビューアは表示されません。レイアウトモードでは、Web ビューアは、対角線が表示された長方形として表示され、内部に「<不明なオブジェクト>」という文字が表示されます。
- タブコントロール（バージョン 8 からの機能）：バージョン 7 の FileMaker Pro で開いた場合、タブパネルを含むレイアウトは開きますが、タブパネル上にあったオブジェクトは重なり合って表示されます。

FileMaker Pro 10 でファイルを作成したり、開いたりした後は、旧バージョンの FileMaker Pro を使用してデータベースの設計やレイアウト（特に FileMaker Pro 10 で変更された機能）を変更しないことをお勧めします。

FileMaker Pro 10、FileMaker Pro 9、FileMaker Pro 8.x、および FileMaker Pro 7 は、同じファイル形式を共有しているという点に注意してください。したがって、FileMaker Server 7、8、9、10 が共有しているファイル、および FileMaker Pro 7、8.x、9、10 がホストとして共有しているファイルをゲストとして FileMaker Pro 7、8.x、9、10 で開くことができます。ただし、古いバージョンで開いた場合、それ以降のバージョンで追加された新機能は使用できません。複数のバージョンが混在している環境で使用すると、特定の機能が使える人(バージョン)と使えない人(バージョン)が混在することになり、これが原因でシステムが混乱することがあります。混乱が予想される場合は、サーバ側のファイルにクライアントの FileMaker Pro のバージョンをチェックする機能を組み込むなどして、開くことができるクライアントを限定するなどの対策をとることをお勧めします。

2. ファイルメーカー Pro 6 以前の場合

旧バージョンの ファイルメーカー Pro で作成したファイルを FileMaker Pro 10 で使用する場合は、FileMaker Pro 10 の形式 (*.fp7 形式) に変換する必要があります。FileMaker Pro 10 は、バージョン 3、4.x、5.x、および 6 で作成されたファイルを変換することができます。それ以前のバージョンで作成したファイルについては、次の「2.1 ファイルメーカー Pro 1.0 および 2.1 のデータベースの変換」を参照してください。FileMaker Pro 10 でファイルを変換しても、元のファイルはそのまま残ります。元のファイルの内容を読み込んで新しいファイルを作成するだけですので、元のファイルは、旧バージョンの FileMaker Pro で開くことができます。ただし、変換は万能ではありません。旧バージョンのファイルを読める状態にすることはできませんが多少の修正が必ず必要になります。

2.1 ファイルメーカー Pro 1.0 および 2.1 のデータベースの変換

FileMaker Pro 10 では、ファイルメーカー Pro 1.0 または 2.1 で作成されたファイルは変換できません。これらのファイルを FileMaker Pro 10 で使用するには、ファイルメーカー Pro 3、4.x、5.x、または 6 に変換してから、FileMaker Pro 10 を使用してもう一度変換する必要があります。

注意:Windows 用のファイルメーカー Pro 3、4.x、5.x、または 6 で変換できるのは、2.1 のファイルだけです。1.0 のファイルを変換する必要がある場合は、Mac OS コンピュータ上でファイルメーカー Pro 3、4.x、5.x、および 6 を使用してファイルを変換します。

2.2 単純なファイルの変換

データベースソリューションが非常に単純な場合、たとえば、個人の住所録や家計簿、会社でのタイムカードや社員名簿など、旧バージョンのファイルメーカー Pro に付属するテンプレートから作成した単純なファイルは、ほとんど修正することなく、そのまま使用することができます。ただし、変換したファイルには次のような修正が必要になります。

- 印刷用のスクリプトが設定されている場合は、再度設定が必要です。
- バージョン 6 以前で使用していたコンピュータと、FileMaker Pro 10 で使用しているコンピュータでは、通常オペレーティングシステム(OS)が異なるため、以前使用していたフォント(書体)がない場合があります。こうした場合は、代替フォントで表示されるので、画面の文字のイメージが変わります。変換後にレイアウトモードでフォントを再指定してください。
- フィールドの枠に表示される文字の位置が変わりました。バージョン 6 までは、英語版、日本語版と区別したアプリケーションでしたので、日本語の文字に適した位置に配置されていましたが、バージョン 7 からは、1つのアプリケーションの中に複数の言語を統合する形になっています。このため、複数の言語の文字で共通に使えるように文字の配置位置が変わりました。日本語の場合は、バージョン 6 以前と比較すると、全体が少し上に上がり、左端は、少し左に寄るようになります。気になる場合は、変換後にレイアウトモードでフィールド枠のサイズを調整してください。

次のファイルの「データベースファイルの変換 (17 ページ)」の方法を使用してファイルを変換し、変換されたファイルをテストして使用してください。

旧バージョンの FileMaker データベースの変換

http://www.filemaker.co.jp/downloads/documentation/FM8_Converting_Databases_J.pdf

2.3 複雑なデータベースの変換

複数のファイルで構成され、複雑なスクリプトや計算式などが使用されているリレーショナルデータベースや、ビジネスに不可欠なデータベースを変換する場合は、次のいずれかの方法で対処します。

2.3.1 旧バージョンのファイルを変換して活用する

旧バージョンのファイルを変換し、新バージョンで変更された機能や、新しい機能への置き換えなど以前と同じ動作ができるようにファイルに手を加えます。その上で、すべてのデータを削除して、最新のデータを取り込み、索引を作成します。

作業の詳しい流れは、「旧バージョンの FileMaker データベースの変換」ファイルの 9 ページにある「複雑なデータベースの変換」や 10 ページの「複雑なデータベースの変換チェックリスト」を参照してください。またこのファイルには、データベースファイルの変換方法や、変換時にどういった変更を FileMaker Pro が行っているかも詳しく記載していますので、一読してください。

注意：データベースファイルを変換する際、FileMaker Pro は、旧バージョンのファイル名の最後に「(旧)」の文字を自動的に追加します。ファイル名が変更されたファイルを旧バージョンで開くと、リレーションが正しく機能しなくなります。変換する場合は、あらかじめバックアップを取ることをお勧めします。

2.3.2 新たに FileMaker Pro 10 でデータベースを作成する

今まで使ってきたシステムに必要な機能を盛り込みながら、FileMaker Pro 10 の機能を使って作り直し、そこに最新のデータを取り込んで、索引を作成します。

ファイルの数やリレーションシップの数が多い場合、システム移行にかかる時間と予算があれば、新たに作り直すことをお勧めします。バージョン 7 以降ではデータベースの要となるリレーションシップが変わっています。バージョン 6 までは、一つのファイルに作成できるテーブルが一つだけでしたが、バージョン 7 以降では、一つのファイルに複数のテーブルを作成できるマルチテーブルになりました。加えて、関数やスクリプトをはじめ、多くの機能強化が行われています。

システムを見直すよい機会としてとらえることもできます。運用期間が長く、なんども修正が加えられたシステムの中には使用していないフィールドやレイアウト、変更が必要なスクリプトなどがある可能性があります。また、新たに追加された新機能を使用すれば、より効率的に処理することができる場合もあります。こうした場合は、新たに作り直したほうが、結果として便利で処理速度も速いシステムを使うことができるようになります。移行に費やした労力も短期間で消却することができます。

一般に、システムを作り直すには、変換して使用するよりも多くの時間と予算が必要になります。したがって、変換に頼るのか、新たに作り直すのかは、費用と効果を考えて決定してください。

2.4 ファイルの変換直後の注意点

FileMaker Pro 10 でファイルを変換したときに、次のような問題が出てきた場合は、次の点を確認してください。

【問題】 ファイルが正しく変換されない

【確認ポイント】

- 変換する前に、ファイルが閉じられていることを確認します。ファイルのコピーを変換する場合は、元のファイルを閉じてからコピーしてください。ファイルが開かれていると、正常に変換されません。
- 変換の保存先のフォルダにある「Conversion.log」ファイルを確認します。次の「変換ログファイルの使用」を参照してください。
- 変換元のファイルに問題があり、修復が必要な場合があります。この場合は、旧バージョンのファイルメーカー Pro を使用してファイルを修復してから、もう一度ファイル変換し直します。FileMaker Pro ヘルプの「ファイルの修復」を参照してください。

【問題】 旧バージョンのファイルメーカー Pro を使用して元のファイルを開くと、一貫性のチェックまたは自動修復のメッセージが表示される

【確認ポイント】

- FileMaker Pro 10 で変換する前に、ファイルの作成に使用した旧バージョンのファイルメーカー Pro を使用して元のファイルを修復してください。

【問題】 正常に変換されたかどうかわからない

【確認ポイント】

- 変換されたファイルと同じフォルダにある「Conversion.log」ファイルの内容を確認します。また、次の「旧バージョンの FileMaker データベースの変換」ファイルの 10～16 ページに「複雑なデータベースの変換チェックリスト」が掲載されていますので、そちらも参照してください。

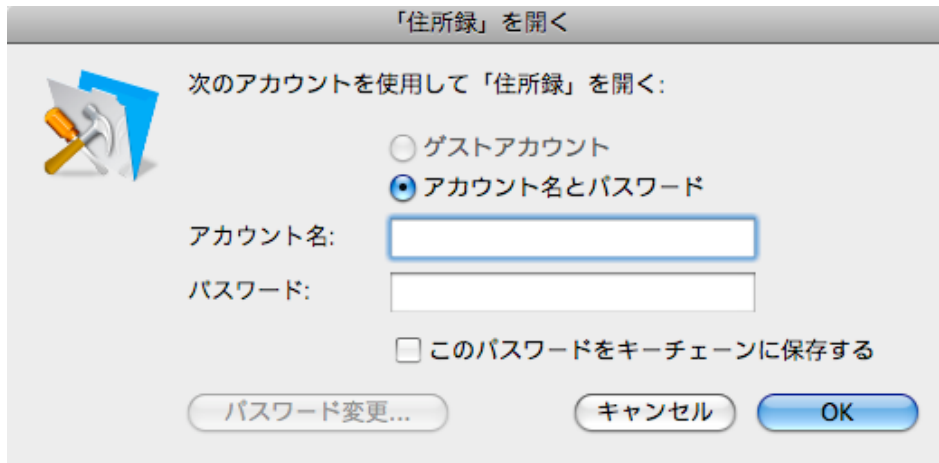
旧バージョンの FileMaker データベースの変換

http://www.filemaker.co.jp/downloads/documentation/FM8_Converting_Databases_J.pdf

【問題】 変換されたファイルで、[パスワード] だけでなく [アカウント名] を聞かれる

【確認ポイント】

- FileMaker Pro 7 以降では、[アカウント名]と[パスワード]を入力するようになりました。変換後のファイルの[アカウント名]には変換前のパスワードを入力してください。つまり、[アカウント名]と[パスワード]に同じパスワードを二回入力することになります。



【問題】 変換されたファイルでパスワードを使用できない

【確認ポイント】

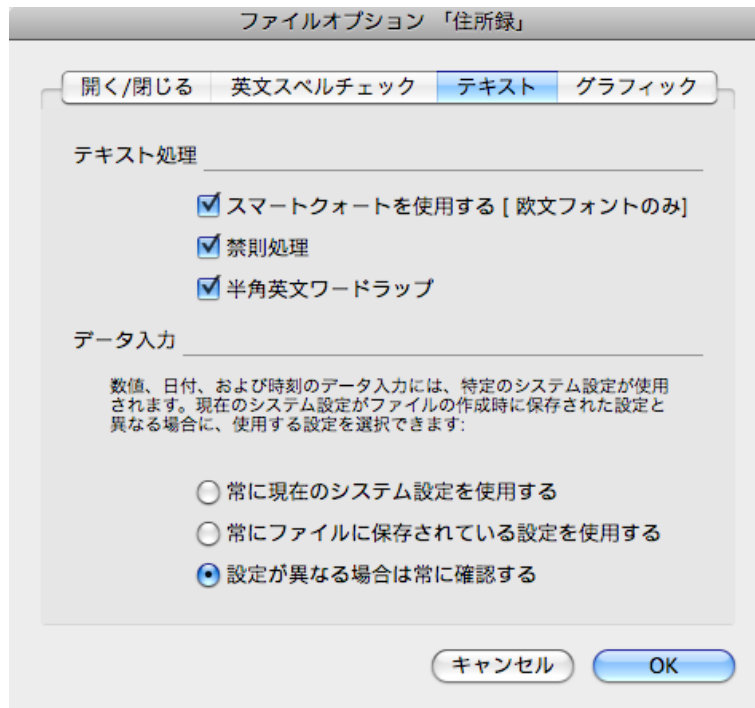
- FileMaker Pro 7 以降では、パスワードの大文字と小文字が区別されます。旧バージョンのファイルメーカー Pro で作成したパスワードと完全に同じパスワードを入力したかどうかを確認してください。
- 元のファイルの所有者か、またはデータベース管理者である場合は、旧バージョンのファイルメーカー Pro を使用して元のファイルを開き、[ファイル「(ファイル名)」のパスワード定義] ダイアログボックスでパスワードを確認します。ファイルの所有者やデータベース管理者でない場合は、データベース管理者にパスワードの情報を問い合わせてください。
- パスワードを変更する必要がある場合は、FileMaker Pro ヘルプの「既存のアカウントの編集」を参照してください。

【問題】 ファイルを開くたびに日付や時刻の書式が違っているという警告が表示される



【確認ポイント】

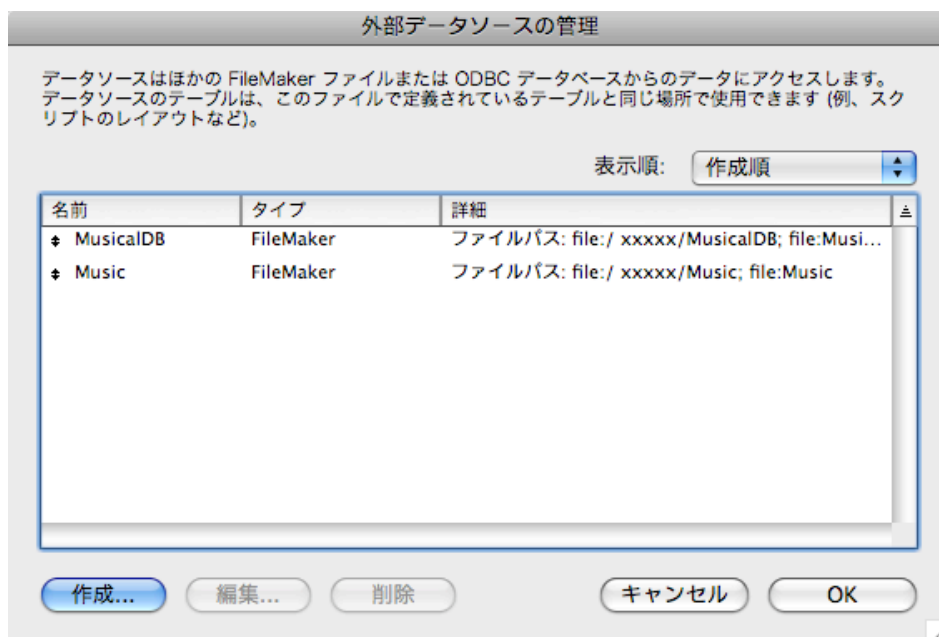
- [ファイル] - [ファイルオプション] を選んで [ファイルオプション] ダイアログボックスを開き、[テキスト] タブを選びます。[データ入力] オプションの選択を [設定が異なる場合は常に確認する] から [常に現在のシステム設定を使用する] または [常にファイルに保存されている設定を使用する] のどちらかに変更します。



【問題】 変換されたファイルを開くのに非常に時間がかかる

【確認ポイント】

開くのに時間がかかる場合は、問題のファイルの [外部データソースの管理] ダイアログボックスで、関連ファイルの設定がどのようになっているかを確認してください。特に、次の点を集中的に確認してください。



- 変換されたファイルに外部の場所を参照するファイル参照が含まれているか（このようなファイル参照はローカルパスに変更できます）、FileMaker ネットワーク（FMNET）パスにワイルドカード文字が使用されている可能性があります。
- 変換されたファイルを開くのに長い時間がかかる場合は、ファイル参照のパス内に現在無効なパスが記述されている可能性があります。開発中に関連ファイル名を変更したり、別ファイルへの再設定が行われていた場合に、ファイル参照のパスが変更作業に応じて複数行記述されています。参照ファイルを開くとき、FileMaker は参照パスを上から順に評価するため、パス内に現在無効な参照が残っていると、そのファイルを確認するための待ち時間が発生します。このような場合、ファイル参照の記述から無効な参照の記述を削除することで、ファイルを開く速度を向上することができます。

- アスタリスク (*) のワイルドカードが含まれるファイル参照は、同じ場所にアスタリスクが入力された状態で変換されます。これにより、FileMaker Pro がネットワークファイルパスを解決する速度が低下する場合があります。変換されたパスの形式は、元のファイルでパスがどのように指定されたかによって変わります。たとえば、変換するファイルが FileMaker ネットワークによって共有されているか、または FileMaker Server によってホストされていて、スクリプトまたは値一覧にネットワークファイルパスが指定されている場合、変換されたファイル参照の形式は、元のファイルでパスがどのように指定されたかによって異なります。

ホストコンピュータの IP アドレスを指定した後に [ファイルを開く] ダイアログボックスのファイル一覧からファイルを選択した場合、パスは「fmnet:<IP アドレス>/ 営業報告書」のような形式になります。この形式のファイル参照は、このまま使用することができます。

ホストコンピュータの IP アドレスを指定せずに [ファイルを開く] ダイアログボックスのファイル一覧からファイルを選択した場合、パスは「fmnet:/* / 営業報告書」のような形式になります。変換後にこの形式のファイル参照を見つけた場合は、アスタリスクをホストコンピュータのドメイン名 (fmserver1.mycompany.com など) または IP アドレスに置き換えることをお勧めします。参照先のファイルが参照元のファイルと同じサーバ上にある場合は、ファイル参照を相対パスに変更することをお勧めします (例: file: 営業報告書) 同じコンピュータ上にあるファイルに対して相対パスを使用すると、後でデータベースを別のコンピュータに移動した場合でも、ファイル参照を更新する必要がなくなります。

2.5 変換ログファイル

変換ログファイルは、変換されたファイルと同じフォルダに作成され、変換状態と問題となる可能性がある項目 (無効な名前のフィールドなど) が記録されます。ほとんどの場合は、変換されたファイルで問題を修正することができます。変換後に修正すると複雑で時間がかかる問題があることをログファイルが示している場合は、旧バージョンの FileMaker Pro で元のファイルで問題を修正してから、ファイルを再度変換してください。詳細については、次の「旧バージョンの FileMaker データベースの変換」ファイルの 22 ページを参照してください。

旧バージョンの FileMaker データベースの変換

http://www.filemaker.co.jp/downloads/documentation/FM8_Converting_Databases_J.pdf

www.filemaker.co.jp